

## 平成30年漁期 ずわいがに漁獲可能量(TAC)改定案について

(単位:トン)

魚種	系群	資源状態		ABC <sup>(注1)</sup>				TAC <sup>(注2)</sup>				備考
		水準	動向	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年(案)	
ずわいがに	<p>【中期的管理方針】</p> <p>日本海系群、太平洋北部系群及び北海道西部系群については、資源の維持若しくは増大を基本方向として、安定的な漁獲量を継続できるよう、管理を行うものとする。特に、日本海系群については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で大韓民国漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組みものとする。</p> <p>オホーツク海系群については、ロシア連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。</p> <p>【平成30年TAC期中改定の考え方】</p> <p>1. 本系群のTACは、平成29年度資源評価において「近年の平均親魚量の維持シナリオ」で算定したABCのLimit(3,600トン)と等量としたところ。</p> <p>2. このABCについて、国立研究開発法人 水産研究・教育機構から示された再評価結果では、3,200トンに下方修正された。</p> <p>3. ズワイガニは、その生活史から親資源を一定以上に維持していく必要性が特に大きい種であることに加え、平成31年以降は加入量の減少が見込まれるとの予測が同機構によりされていることから、今後の加入量確保のために親資源を確保する必要性は高まっていると考え、TACを期中改定し下方修正されたABCと等量(3,200トン)とする。</p>											
	日本海系群A海域	中位	横ばい	3,500	3,800	3,700	3,200	3,500	3,800	3,700	3,600 (3,200)	
	日本海系群B海域	高位	横ばい	660	590	510	610	660	590	510	610	
	北海道西部系群	中位	横ばい	43	43	43	43	43	43	43	43	
	オホーツク海系群	中位	減少	—	—	—	—	500 (1,000)	500 (1,000)	1,000	1,000	
	太平洋北部系群	中位	横ばい	20	59.5 (229)	263	173	20.1	59.5 (229)	263	173	
合計								4,723.1 (5,223.1)	4,992.5 (5,662)	5,516	5,026	

注1) 平成30年日本海系群A海域のABCは再評価の数量。

注2) 下段括弧内は、期中改定後の数量。